

偽性高 Cl 血症から診断に至った慢性ブロム中毒の 2 症例

©津田 真莉子¹⁾、向田 直美¹⁾、横田 寛子¹⁾、日浦 志朗¹⁾、西村 勝彦¹⁾、濱崎 浩一²⁾、松田 翔平²⁾、面田 恵²⁾
独立行政法人 労働者健康安全機構 中国労災病院¹⁾、独立行政法人 労働者健康安全機構 中国労災病院 薬剤部²⁾

【はじめに】電解質の測定方法として広く使用されているイオン選択電極法において、Cl 電極では同じハロゲン族のイオンの存在で偽高値となることが知られている。今回血清 Cl が偽高値となったことを契機に市販鎮痛薬の長期服用による慢性ブロム中毒と診断された症例を 2 例経験したので報告する。

【症例 1】60 歳代、女性。食欲不振と倦怠感を主訴に内科外来を受診した。血清 Cl は電極系のエラーにより測定不能となったため服薬状況を確認したところ、10 年前からブロムワレリル尿素を含む市販鎮痛剤であるナロン顆粒®を常用していることが分かった。慢性ブロム中毒の可能性を考え主治医に報告し、病棟薬剤師に情報提供した。また、血中ブロム濃度の測定を主治医に提案し、大阪労働衛生総合センターに分析の依頼をした。測定結果は 709.809mg/L (基準値：10mg/L 以下) と明らかな上昇が認められた。

【症例 2】90 歳代、女性。元来頭痛持ちで、ブロムワレリル尿素を含む市販鎮痛薬であるナロンエース T®を長期間内服していた。自宅でぐったりしているところを発見され当

院へ救急搬送された。血清 Cl が測定不能となったため慢性ブロム中毒の可能性を考え、救急外来に赴き主治医に報告した。その後血中ブロム濃度測定の提案をし分析依頼した結果 712.537mg/L と明らかな上昇が認められた。主治医の許可を得て病棟薬剤師と病室を訪問し、臨床検査技師は検査結果説明を行い、薬剤師からは服薬指導を行った。

【考察】臨床化学自動分析装置 TBA-nx360 においてブロムイオンに対する選択係数は 4.28 と示されており、症例 1 では 36.4 mmol/L、症例 2 では 36.6 mmol/L の正誤差が Cl 値に生じていたと考えられる。ブロムイオンは血中半減期が 12 日と著しく長く、規定の容量範囲であっても連用により副作用が生じることがある。今回の症例のような患者は市中にも多く存在している可能性があり、本疾患を念頭に置いた診断・治療が求められる。我々臨床検査技師は測定値に影響を及ぼす要因を熟知しておく必要がある。また多職種の情報交換が診断に有用であり検査結果の解釈を交えて臨床側に正しい検査結果を伝達することが必要と考える。
連絡先：0823-72-7171(内線 459)